

高退協事務局 新任で挨拶

三月から五
正月にかけては、
いろいろな場
所で「退職の
挨拶」をしま
した。

「退職の挨拶」 よくがんばったね

教師ながら
ひとまえての
話に緊張しな
がら、またお
聞かせするメ

ンバーが若干かぶると少し言
い方を変えたりもして、「教
師になりたての頃」「臨時教
員の頃」「養護学校への就学
義務化の頃」「採用になって
赴任した若草養護学校の当時
の様子、先輩のこと」「三十
四年間にわたる障害児学校で
の教員生活、教え子のこと」
「集団の大切さ」などについ
て述べて、挨拶しました。教
え子のことでは、言葉に詰まっ
たり、不覚にも涙が流れたり
もしました。(まだ二か月し
か経ってないのに、もう昔の
ようになっていきますが) 自
分への「退職の挨拶」は、
「よくがんばったね」でした。

「三十四年間、教師をしたね」
「子育てもしたね」「家も建
てたね」「活動も(少しは)
したね」「〇〇もしたね」
「×もしたね」(プチブル的
だと自己批判を求められそう
ですが)でもそんな思いでいっ
ぱいです。
さて、六月に入りました。
「とつても自由」という言葉
が、ぴったりの毎日です。い

やなことはしない、無理なこ
とはしないという気持ちと
「今日は何をしよう、こんな
ことしよう」「明日は何をし
よう、あんなことができる」
と心身とも解放された思いで、
「三十四年間の自分なりのが
んばりをほめながら(安住し
ながら)」「退屈もしない、の
んびりと落ち着いた生活を、
結構楽しんでる今日この頃
です。

夏休みの夏 サッカー 日本一を目指す シニア

倉橋 楠雄

3月末無事
退職した。そ
して皆さんの
仲間入り、何
かお役に立て
ばと、役員を
引き受けた。
これから
「あれも」
「これも」と
やりたいこと
がいくつかある。まず、シニ
アサッカーの日本一を目指す。
4月の県予選、四国大会とも
に優勝。5月末の全国大会は
秋田県。全国から地域代表1
6チーム。気温30度の高知か
ら、秋田空港に降りて驚いた。
滑走路脇に雪がまだ残ってい

た。試合会場は山形県との県
境。雪がたつぷり残った鳥海
山も間近に見えた。試合結果
は大阪・千葉・静岡とのベス
ト4をかけたリーグ戦で敗退。
高知に1-0で勝った大阪が
勢いに乗り優勝した。来年こ
そは！リベンジしたい。
ところが、次の段階に向け
て動こうとしたとたん、障壁
が待っていた。県教委からの
再登壇依頼。現場は困ってい
る。空白にするわけにはいか
ない。急遽「先生」に戻っ
た。心の準備が不十分で正直
きつかった。6月、7月必死
に勤め、7月19日、めでたく
再退職。そして心身ともに本
来の夏休みに直行。そこへ記

幡多の仲間と「書」を楽しんで

新加入

和賀井美智子

幡多農業高校を退職して14年が過ぎましたが、なぜか今まで高退協とのご縁がなかつたのですが、この所、森本順子さん、橋元陽一さんの呼びかけで仲間入りをさせていただけました。

すると早速原稿の依頼がありましたので、現役時代から今に続く高教組の仲間のお話を致します。

私は、現役時代から書道団体である独立書人団、墨線美術協会に属して「書」活動をしていましたので、退職して1年後のある日、熊野巖さんから「書道教室」をしないかとのお話がありました。私の趣味が生かせるならと教室を始めることにいたしました。

目標は「とにかく皆で楽しく書くことが好きになろう、そうすれば自然に上手になるよ。」と言うようなことで、週1回、月に4回の二つの教室を開きました。自宅教室では3人組(内2人は是澤啓子、小松美恵)が書いたり喋ったりの賑やかなこと、そしてコーヒータイムも大好きな楽しみのひとときです。

もう一つの働く婦人の家教室には、知人のおばさま達5人位の中に、熊野巖さんが黒一点でいます。熊野さんは退職後は釣り人(本格的な漁師に)になっていますが、釣りのできないときは「書」を楽しまれています。教室ではおばさま達に大人気というようない合わせです。

休むことなく続く二つの教室も14年目に入りました。一昨年、是澤さんが四万十市展で受賞された作品が、黒線美術協会(高知県)発行の「墨線誌」に載り、熊野さんは師範になっていきます。また他の人達も毎月作品が写真版になったり、この夏の墨線美術協会の展覧会(かるぼーと)に出品するなど、皆それぞれに「作品」をつくり、「書」の鑑賞をしたり思いがけない喜びを味わっています。

録的な「炎暑・熱暑」の到来である。もはや「台風銀座」は死語となり、巷では「猛暑日本一」の言葉が踊っている。
「あれもやろう」「これもやろう」と張りきっていたが、今しばらくは夏休みを続けるつもり。
残暑も厳しそうだ。皆さんもお身体大切に。あれやこれやよろしくお願いします。



幡多の退職者を祝う会 厳しい情勢を 切り拓いてきた 思い出

橋元 陽一

6月15日(土)、四万十市内の常連で、退職者を祝う会が開催されました。現職が11名、高退協16名が集まり、川淵誠司書記長の司会で、芝光明支部長が上岡直美さん(欠席)と山下博史さんの退職を労うあいさつで始まりました。続いて山下さんが幡多で学校と地域との繋がりの中で過ごしてきた教員生活の思い出を語りました。

今回は参加者全員がそれぞれ近況を語り合いました。今年で閉校になる大月分校では蚕を養殖して記念団扇をつくるなど創意工夫した閉校式を企画していること、今後の存続が危ぶまれている西土佐分校のこと、2学級までになった清水高校のことなど、幡多地区の公立高校の厳しい状況なども語られました。

また退職組からは私費職員の実習助手への採用闘争や毎週の職闘を開いてとりくんだ分会活動など、厳しい情勢を切り拓いてきた思い出が次々に語られました。特に参加者が幡多農に所属していた人が大半を占めたことから、当時の分会活動の思い出話で盛り上がる中、田所邦子さんが吹かれるケーナと女性人の歌声も響き、幡多の温かい人のつながりを感じ合いながら閉会しました。

憧れの人、戸坂潤

横田 慧

戸坂潤は、戦前「唯物論研究会」を主宰し、節操を守り通したがゆえに投獄され、終戦直前、長崎原爆の日に獄死しました。四十五歳でした。

彼は、三十歳代になった私にとってもまだ、単に憧れの人でした。いろいろな論文に引用されているのを読んで、いつか戸坂本人の論文を読み通したいと願っていました。それが、私が三十七、八歳で東京出張の折、神田の古本屋（小宮山書店）で、毎日出版文化賞に輝いた「全集五巻」（勁草書房刊）を見つけたのです。私は財布の中をのぞき込み、一食抜かせば足りる、と計算して買い求めました。店主は重いから送ろうと言ってくれましたが、私は宝物を抱いて帰りたいからと、その場で受け取りました。新刊価格七千円が古本でも六千円もしました。

帰って来ると、毎夜読み耽りました。そして、戦前の唯物論者のレベルの高さに驚嘆しました。その時から私は、マルクスたちの文献を「教条的」に決して読んではならない、必ず自分の頭で考え、それまで学んだすべてのことと照合し、矛盾に気づかなければならないと、心に決めました。どうしても戸坂をノートにとりたいたいと思いながらも、多忙な毎日のなかでは不可能でした。

飲水思源

やっとノートをとりはじめたのは、退職後五年も経った六十五歳の年末でした。百枚綴じのノート六冊にびっしりと書き込みました。それをもう一度、初心にかえって再ノートすることにしたのが、七十七歳の夏でした。目を悪くしてペンが使えませんから、ワープロで毎日書き続けました。書き始めてから半年後の、ことし二月二十四日早朝四時五十五分完了しました。約七十万字になりました。もう私の胸は幸福感でいっぱいです。その一端は、つぎの『こうたいきょう』に書かせていただきます。

全退協四国ブロック交流集会案内

日時 11月6日(水) 12:00~
7日(木) 11:30解散
場所 西条市大町
西条国際ホテル(JR西条駅隣)
参加費 13,000円
1日目 ・別子銅山記念館などの観光
マイントピア別子で昼食
・分散会
連帯、平和・民主主義、生きがいなど
2日目 記念講演
「水野広得—軍服を脱いだ平和主義者—」
平岡瑛二氏(子規記念館学芸員)

俳句



7月20日(土)
持寄句会 “当李雑詠”
吉本 伸秋
噴水のあつけらかなと空に散り
路地涼し敲き大工も住み古りて
梅雨明や飛行機雲ののびて来る
見はるかす大土佐晴や合歓の花

6月15日(土)
高知市春野町
秋山34番札所種間寺
合田 青幹
大寺領東西南北青田風
一山を紫陽花埋めしご神城
草莽に陶房ひそと栗の花
枇杷熟るる井筋明るく水奔る
蟋蟀つ夜は螢の里ならん
雨音を拾ひはじめし蓮田かな

川柳

南珀抄③
小澤 幸泉
廃絶の祈り届かぬ原爆忌
八月の海は戦さを知り尽す
迷い道あつて世の中おもしろい
義母の住む故郷とおい
過疎の町
いよいよと覚悟を決めても
まだ来ない
孤独にも耐えて目覚める
老いの朝
救済史語り終えたり夏半ば
セピア色の写真の奥で
娘が笑う



未来をひらく教育のつどい
2013年度高校・障害児学校
教育研究集会(予定)
全体会・課題別分科会
11月16日(土)
会場:未定
13:00~18:00
交流会19:00~

短歌

リフォーム屋さん
山本晶子
リフォーム屋のご主人の腕た
しかなり様々なる服リフォームを待つ
奥さんは私と同年人のよき笑
顔でいつももてなしくるる
あくせくと暮らす吾より幸せ
そう何が幸せかいつも思う
TV「歴史館」での
「平田篤胤」
榊原忠彦
炎ゆる日はつづけど打ち水に
行けぬまま庭の草木は枯れま
さりいく
いささかの知識は持ちし篤胤
なれどテレビ「歴史館」にて
蒙開かれし
(七月三十一日、TV「妖怪」)
幾度も権力隠し宮本美汐遺言
届けぬ原爆のデータ
(池沢夏樹「アトミックボックス」毎日
新聞連載小説、七月二十日完、傑作)

猛暑

叶岡淑子
きな臭き放言つづくこの国の
この夏しるき猛暑と豪雨
「敗戦に責任なし」とA級戦
犯 ラジオの声に今が重なる
(八月十三日RKC高知放送ラジオ
番組—57年前の音源—を聴く)
『あたらしい憲法のはなし』
に育てられし自負ありわたし
は憲法守る